

# 図書館友の会 ニュース

発行 岸和田市図書館友の会 《発行責任者 松谷 敬一》

2023年  
7月号  
No. 27

## 図書館友の会岸和田再発見教室 公開講演会

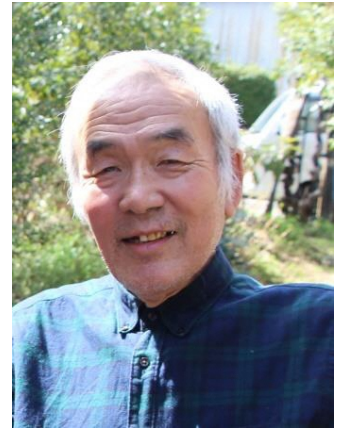
ひねのしょう

### 日根荘にみる鎌倉期と戦国期

#### — 荒野開発と年貢徴収 —

講師：井田 寿邦 氏

(泉佐野の歴史と今を知る会事務局長)



鎌倉時代に日根荘の荒野開発を目的として中世久米田寺によって作成された2枚の荘園絵図（「日根野村・井原村絵図」「日根野村絵図」）と、戦国時代に日根荘領主・元関白の九条政基(くじょう・まさもと)が4年間当地に滞在して記した日記『政基公旅引付』を素材にして、日根荘の変遷と中世の庶民の生活を紹介します。

**日時** 8月5日(土) 13:30~16:15, 参加費無料

**場所** 岸和田市立八木市民センター2階 講座室1

**定員** 60名(申込み先着順)

7月11日(火)午前10時より岸和田市立図書館(本館)で受け付けます。

※ 直接または電話(072-422-2142)でお申し込みください。

講演会当日は、自動車でのご来場をご遠慮ください。

**【主催】** 岸和田市図書館友の会・八木地区市民協議会・岸和田市立図書館

#### 図書館友の会 総会&公開講演会を開催

「図書館友の会」は6月14日に図書館で総会を開催し、2022年度の活動報告・決算報告、2023年度の活動計画・予算案を提案。それぞれ了承されました。

総会後には「友の会」の杉原富人副会長が「新型コロナウイルスの『進化』と今後」と題して講演。参加者からの質問・意見も多く、有意義な一日でした。

## 公開講演会「ヤマト政権と摩湯山古墳・久米田古墳群」

### 西川先生の話がとても楽しかった

6月17日、岸和田市立八木市民センターには74名が参加し、西川寿勝氏（大阪府立狭山池博物館・元学芸員）の話に聞き入りました。考古学のいろんな話題も交えながら、「ヤマト政権」や「邪馬台国」の話から、岸和田の摩湯山古墳・久米田古墳群の話まで縦横に語っていただき、講演後も多くの方から質問や意見が交わされました。



参加者の感想には、「古墳のことがいろいろ聞いておもしろかった」「摩湯山古墳の時代背景がよくわかった」「楽しくわかりやすかった」の声と共に、「私にはむつかしかった」という声も…。それでも、専門的な内容をユーモアも交えた軽妙な語り口で聞くことができ、参加者それぞれ楽しいひと時を過ごされたようです。

#### 講演会参加者の感想

#### ◇今年の「文学歴史散歩」（11月15日予定）が楽しみ。

「図書館友の会」再発見教室 五嶋久美子

考古学の観点からお話しされた西川先生の講演は、私の記憶の中で忘れかけていた古代史を一瞬にして思い起こさせてくれました。古代にも今につながる人々の暮らしと歴史のあった事をすっかり忘れていました。11月に予定されている「文学歴史散歩」で当時の遺跡、遺物を見るのが今から楽しみです。（4面を参照）

#### ◇今後のガイド活動にも活かします。

岸和田ボランティアガイド 木村豊秋

日頃、岸和田を訪れる旅行者や市民の方々を対象に岸和田城、城周辺の街歩き、だんじり会館などをボランティアで案内しており、久米田エリア（池、寺、古墳）を案内する機会もある。「広報きしわだ」で岸和田市立図書館友の会主催の本講座の開催を知り、「岸和田の古墳に関し、最近の研究成果を知る良い機会だ」と、早速、ガイド仲間数名と参加を申し込んだ。

講演会場に足を踏み入ると、大勢の聴衆で満席の状態。講師の西川寿勝先生の明瞭で時折冗談も交えて流れるようなお話しぶりに、午後の眠気も吹っ飛び引き込まれた。

お話は、弥生時代の滅びた一因が気候変動（西暦127年が最多雨量）によるなど興味深い前置きにつき、古墳時代の我が国の支配体制「ヤマト政権」から説き起こされた。国名「日本」の発祥が白村江の戦いで敗れた戦後処理によるとの説は面白い。

次いで、箸墓古墳などマキムク遺跡周辺に古墳時代前期前半築かれた大型古墳「オオヤマトの六王墓」に触れられた。最近マスコミで話題になった吉野ケ里遺跡の石棺墓にも触れられた。

マキムク遺跡の終焉に伴い佐紀古墳群の大王墓が築かれ、同時代にこれらに匹敵する規模の古墳が大和・河内地域の各地に築かれる。和泉の摩湯山古墳はこれらと同時期、同規模であり、有力豪族の墳墓と位置付けられるとのこと。また、久米田古墳群は、摩湯山古墳に続き築かれるが、貝吹山古墳の被葬者は茅渟の県主が候補とのこと。大規模な古墳は政権側が禁じていたことなど興味深い。

講演後は、講師の先生の近況に関する質問も飛び出すなど熱心な質疑応答が続き、予定時間を大幅に超えた。かなり専門的な内容には、当方の理解が追い付かない。全国で古墳の数が16万基（城は山城跡も含めて4万）、また、数の多い順は千葉、群馬、茨城と関東であることは初めて知った。

今後のガイドに活かそうと改めて思える、岸和田再発見の午後であった。

## 地名の秘密

### ㊦ 深日(ふけ)

大阪府南西端、泉南郡岬町にあり、大阪湾に面した海沿いの町。

南海電鉄沿線に住む私には、深日(ふけ)と自然に読めるのだが、深日町・深日港駅は南海電鉄きっての難読駅名だという。そう言われると、初見でこれを読むことが出来る人は少ないのではないだろうか。

読みは「ふけひ」で、「ふけい」→「ふけ」に転訛したという。「吹飯(ふけい)の浜」「吹井の浦」として、『万葉集』『古今和歌集』『菊葉(きくよう)和歌集』などに登場する景勝地。港は蛸、鯨、鰯の漁獲を主とする大阪湾漁業の中心地で、岬町発足以来の町役場所在地でもある。淡路島津名を結ぶ大阪湾フェリーも就航している。また765年(天平神護1)称徳天皇は紀州行幸の際、深日行宮に宿泊された(『続日本記』)と伝わる。

つまり奈良時代には、すでに深日という地名が成立していたようだ。実際、全国の海沿いの町には「吹浦(ふくら)」(山形県飽海(あくみ)郡)「深浦(ふかうら)」(福岡県大牟田市)など「ふくれる」という言葉から転じた地名が多く残っている。一方、水位の深い場所を表す「泓(ふけ)」という言葉が起源だともいわれる。古代に存在していた深日という地名は近世になっても村名として使い続けられているのだ。

地名とは別だが、幕末時点、日根郡深日村は、常陸土浦藩領(現在の茨城県土浦市)であった。1870年(明治3)堺県に移管。1881年(明治14)大阪府の管轄となっている。紀州藩や岸和田藩ではないのも面白い。

《資料》 南海沿線の不思議と謎(実業の日本社)、民俗地名語彙事典(日本地名研究所編)、その他インターネット資料

【文責】 文章教室 浦田榮二

# 友の会「文学歴史散歩」(バスツアー) 11月15日予定

## まきむく 今年は、纏向遺跡(邪馬台国の所在地?)を中心に

今年の友の会「文学歴史散歩(バスツアー)」は、邪馬台国の所在地とも考えられる「纏向(まきむく)遺跡」を中心に、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館および桜井市立埋蔵文化財センターを訪問し、初期ヤマト政権の発祥の地を見聞します。

桜井市には、卑弥呼の墓とされる「箸墓(はしはか)古墳」、三輪山をご神体とする日本最古の神社「大神(おおみわ)神社」、そして、数えきれないほどの遺跡が存在しています。発掘された遺物だけでも相当な数にのぼる、古代文化が息づいている土地です。お楽しみに…。

### ◇ 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

奈良県立橿原考古学研究所は、現在まで存続している公的な埋蔵文化財研究機関としては最も古い歴史を持ち、橿考研(かしこうけん)と略されることもあります。

主に奈良県内の遺跡発掘調査を手がけ、初期の纏向遺跡をはじめ、ホケノ山古墳、黒塚古墳、桜井茶臼山古墳、メスリ山古墳、藤ノ木古墳、高松塚古墳などの学史に残る著名な古墳や、飛鳥京跡や東大寺、唐招提寺などの発掘で全国に名が知られています。併設する奈良県立橿原考古学研究所附属博物館には旧石器時代から室町時代までの計約3700点が展示されています。



### ◇ 桜井市立埋蔵文化財センター



桜井市立埋蔵文化財センターは、地域の考古・歴史・民俗資料を収集し調査・研究することを目的にして1988(昭和63)年に創立されました。

桜井市の遺跡から出土した埋蔵文化財の研究と展示などを行っています。

詳細は「図書館友の会ニュース」  
10月号でお知らせします。

## あなたも図書館友の会に入りませんか

岸和田市図書館友の会は、会員の皆さんの会費(年会費:1,000円)で自主的に運営しています。講演会や読書会、文学歴史散歩(バスツアー)など、いろんな催しを企画・実施しながら、「文章」「詩」「短歌」「俳句」「岸和田再発見」などの各教室なども開いています。(5つの教室に興味があれば、見学参加は大歓迎です)

○ 会員は「友の会」が行う文学歴史散歩や、講演会・公開講座などに優先的に参加できます。各教室に参加されない方には「友の会ニュース」を郵送しています。